

2 学校および社会との連携

[概要]

広報普及事業は、歴博の研究活動や、それを基礎とした博物館活動を広く館外に紹介し、また利用者を支援して、日本の歴史と文化の幅広い理解を図ることを目的としている。

そのために開館当初からさまざまな事業を行ってきたが、近年は特に学校との連携に力をそそぎ、学校教員が積極的に博物館を活用できるための支援体制を強化している。また、大学の留学生教育にも関わることで、国際的な活動も展開している。

小・中・高等学校の教員を対象として行っている「先生のための“すぐできる！歴博授業づくり”講座」および「博学連携研究会」は学校との連携を目的とした事業の中核となるものであるが、「博学連携研究会」は2022年度で2カ年を1期とする第7期が終了した。2023年度から第8期を開始している。2008年にスタートした常時開設の体験コーナー「寺子屋「れきはく」」の登録ボランティアでは、2015年度に募集範囲の拡大を試み、順調に運営している。2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では、新しい体験学習プログラムを順次拡充したほか、これまでのプログラムの評価・改善を試みている。2019年2月以降中断していた多くの活動について、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、再開をしている。

これまでの活用状況を検証しながら、歴博と学校および社会とのよりよい連携の方向性の模索を続けることが今後必要である。

広報連携センター 天野 真志

[ファミリー向けプログラム]

れきはくこどもワークシート

本館では、小学生・中学生を対象とした「れきはくこどもワークシート」を作成しており、小学校・中学校団体等の見学や事後学習を効果的に行えるように作成した「歴史と話そう」や、展示資料の観察を主眼とした「さがしてみよう」(小学校1～2年生対象)、「じっくりみよう」(小学校3年生以上対象)がある。

れきはくをかこうよ

「れきはくをかこうよ」は、小学生から中学生を対象とした、本館の展示を使ったスケッチ会として、2001年度より開催している。このプログラムは総合展示室を会場とし、好きな展示物を選んで写生するもので、絵を描いたあとに展示物の解説や作品へのコメントを当館の教員から受けることで、より展示物への理解と興味を高めようという試みである。完成した作品は本館ホームページの「子どもサイト」にて、画像を掲載している。

開催日時：2023年8月5日(土) 13:00～16:00

会場(担当教員)：第1展示室(高田)

参加人数：13名(保護者等除く)

歴博をつかった自由研究相談室

本館では、夏休みの期間中に事前予約制でガイダンスルームにて「自由研究相談」を実施し、本館学校対応職員及び小・中・高等学校の教員(博学連携研究員)を相談員として、小学校・中学校および高等学校の児童・生徒を対象に、夏休みの自由研究課題に関する相談を行っている。本館の展示資料に関連する図書の紹介や展示資料の見方などを助言することにより、自ら課題を調べ、作品をつくりあげるための支援を目的とした取組である。また、自由研究相談室の参加者から出品を募り、作品の展覧会も実施している。

開催日：2023年7月29日(土)、30日(日)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高校	合計
7/29(土)	2	2	0	3	5	1	0	1	1	0	15
7/30(日)	2	2	2	2	4	2	0	0	0	0	14
合計	4	4	2	5	9	3	0	1	1	0	29

歴博をつかった自由研究相談室作品展

開催期間：2023年7月4日（火）～9月3日（日）

開催場所：休憩室（第2展示室・第3展示室間）

出品点数：6点

[大学・大学院]

大学・大学院への対応

本館は、大学共同利用機関であり、大学における学術研究の発展などに資するために設置された。大学・大学院に対しては、講義やオリエンテーション、研修などで歴博の施設や展示・収蔵資料を活用してもらうために利用手続きの改善を図り、『大学のための歴博利用ガイドー歴博でアクティブ・ラーニングー』の冊子を作成・配布している。対応もこれに基づいて行っており、展示の見学だけでなく、本館の教職員によって、展示や館内施設の解説を行っている。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症対策を緩和し、50団体（延べ人数1,804名）について、上記のような対応を行った。

千葉大学留学生プログラム

千葉大学国際教育センターと国立歴史民俗博物館は、2009年10月から連携して、歴博の展示を教育および授業の素材として活用し、留学生の視点から「海外から訪問した人たちが日本の歴史や文化の展示をどのように見るのか、どのような点に注目してみたら母国の人たちがより分かりやすいのかを考える」というテーマのもとに、千葉大学の短期留学生が母国語でワークシートを製作する授業を開講している。2012年より、両機関の連携事業として正式に協定を締結して活動を行っており、これまで中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、ドイツ、オーストラリア、ポーランド、ロシア、トルコからの60名の留学生が各国語と日本語の2か国語でワークシートを作成した。2019年9月から2020年7月まで9名の留学生（中国、台湾）が受講した。なお、2020年3月～7月においては、オンラインでの授業を開催した。

完成したワークシートをプロジェクト紹介パネルとともに本館総合展示休憩スペースに並べ、来館者が閲覧できるようにするとともに、短期留学生が作成したワークシートについては、当館ホームページに掲載している。留学生が展示を通じて日本の歴史と民俗への理解を深めることは、歴博が推進する国際化という点でも重要である。また、留学生の視点を通じて展示の問題点を知ることは、外国人来館者への利便性を今後より充実させていくうえで基礎となるものであり、一定の成果を上げつつある。

2023年度は、中華人民共和国から3名、台湾から1名の短期留学生が参加している。

[小学校・中学校・高等学校]

来館学校の対応・学校訪問

本館では見学に訪れた小学校・中学校・特別支援学校および高等学校等の団体見学に対して、展示室を見学する際のアドバイスとして、学校対応職員によるガイダンスやプログラムを学校側のニーズに応じて行っている。「ガイダンス」は250名程度までの人数を対象とし、「縄文時代の暮らし」や「江戸時代における江戸の暮らし」などのテーマを用意している。2023年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し、6月まで人数を制限し1日1学校団体の受入とした。

2023年度は小学校156校、中学10校、高等学校11校の来館があった。

中学校の職場体験や高等学校のインターンシップなどの受入も行っていたが、2023年度は、2022年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し、受入を中止した。

非来館型の取組

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により来館できない学校団体が増えていること、GIGAスクール構想の実現に向けて、一人1台の端末、ネットワーク環境の整備が学校で進められていることなどから、来館をしなくても博物館の展示を活用し、授業、教育活動等に生かしたいといったニーズが増えることが考えられた。そこで、2021年度から、オンラインで学校の教室とつなぎ、学校対応職員が展示物の説明を行う「オンラインガイダンス」を実施、学校の教員や児童生徒が授業等に活用できる「教育用動画コンテンツ」を提供している。

2023年度は、コロナ禍が収束し、各学校が来館にシフトしたこともあり「オンラインガイダンス」の実施はなかった。

博学連携研究会議

学校の教員が「研究員」として、博物館と学校との連携の仕方を考え、授業として実践していくことを目的として実施している。

2年間を1期として活動しており、2022年度まで7期行われてきた。2023年度は第8期の1年目であり、会議は下記の通り開催された。

2023年6月25日（日）第1回会議 ガイダンスルーム

- ・展示室解説・研究計画についての意見交換

2023年8月20日（日）第2回会議 ガイダンスルーム・講堂

- ・展示室解説・研究計画についての意見交換

2023年12月24日（日）第3回会議 ガイダンスルーム・講堂

- ・展示室解説・研究計画についての意見交換

佐倉市教育委員会教員研修

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を配慮し、開催を中止した。

たいけんれきはく

2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では、新しい体験学習プログラムを順次拡充しており、2015年度は弥生土器パズル、2016年度は木製積木を導入した。2017年度は、アイヌ語カルタを開発した。また、大月ヒロ子氏を2015年度より当館客員教員として迎え、たいけんれきはくの設置からこれまでの活動内容を評価し、問題点や改善点等の検討をすすめている。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を配慮し、2020年2月～2021年12月まで閉室した。2021年12月より、手に取ることができる体験活動は行わずに開室していた。2022年10月4日からハンズオン一部再開（土器パズル、武将の印スタンプ、錦絵スタンプ）。土器パズルは使い捨て手袋の着用、消毒可能なスタンプのキットから再開した。2023年度より、順次新型コロナウイルス対応を解除していき、体験キットの再開を行っていった。

[社会連携]

2023年度は、佐倉市が主催・後援する事業について、協力を行った。民間との連携事業として、成田国際空港株式会社と連携し、成田国際空港国際線第2ターミナルにおいて、特別展示「光る江戸図で感じる日本」と題して、

江戸図屏風の高精細画像を基に内照式の「光る江戸図」を製作し、「解説用ICT機器」と併せて2020年3月12日から展示を開始したが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2021年度、2022年度は、展示スペースが閉鎖されていたが、2023年5月から展示を再開した。

[登録ボランティア]

登録ボランティアは、2007年度までは企画展示で活動していたが、2008年3月18日に第3展示室がリニューアルオープンするのに伴い、2008年度からは寺子屋「れきはく」を主な活動の場とするようになった。当初歴博友の会員のみが登録ボランティアとなっていたが、2014年度からは会員外の方も参加できるようになった。新型コロナ感染症拡大防止のため、2020年2月に寺子屋「れきはく」が休止となり、館内での登録ボランティアの活動はしばらく中止をしていたが、登録ボランティア活動委員会を中心に新型コロナウイルス感染症対策について議論を重ね、2022年3月16日から、寺子屋「れきはく」での活動を平日のみ一部活動を制限して再開した。2022年12月から、月に1～2回で土曜日の開室も始めた。2023年5月以降は、感染症対策を徐々に解除して開室している。さらに、2024年1月からは双六体験も開始した。

登録ボランティア研修については、Zoomを利用したオンラインでの開催を、企画展示等展示解説を中心に実施し、寺子屋「れきはく」再開室にあたり、登録ボランティア活動委員による再開室研修を実施した。2024年1月11日の研修からは対面による研修としている。また『寺子屋「れきはく」かわら版』を月1回程度の頻度で発行し、登録ボランティア活動委員会や登録ボランティア研修の内容を中心に情報発信を行った。

1. 登録ボランティア登録者数 70人（2024年3月31日現在）
2. 登録ボランティア活動延人数及び登録ボランティア活動件数（教材利用延件数）

	日数	ボランティア	手習い帖1利用者
2023/4	14	73	313
2023/5	11	84	265
2023/6	14	96	318
2023/7	15	81	424
2023/8	16	83	1007
2023/9	14	71	269
2023/10	14	80	269
2023/11	16	90	412
2023/12	13	75	225
2024/1	14	79	323
2024/2	14	84	425
2024/3	14	90	565
合計	169	986	4815

3. 登録ボランティア活動委員会、登録ボランティア総会及び登録ボランティア研修の実績

- (1) 登録ボランティア活動委員会（2023年4月～2024年3月）年10回開催
- (2) 登録ボランティア総会（2023年6月19日）、会場参加45名、
- (3) 登録ボランティア研修（2023年4月～2024年3月）

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	2023年4月13日	寺子屋「中世公家の〈公務〉と生活―広橋家記録の世界―」	田中 大喜	会場参加14名 Zoom参加32名
2	2023年8月10日	特集展示「江戸の妖怪絵巻」	大久保 純一	会場参加16名 Zoom参加29名
3	2023年10月6日	企画展示「陰陽師とは何者か―うらない、まじない、こよみをつくる―」	小池 淳一	会場参加14名 Zoom参加33名
4	2024年1月11日	特集展示「新出の野村コレクション」	澤田 和人	会場参加25名 Zoom参加16名
5	2024年3月18日	寺子屋「れきはく」再開室研修	登録ボランティア活動委員	4名
6	2024年3月23日	寺子屋「れきはく」再開室研修	登録ボランティア活動委員	4名

[博物館・資料館]

歴史民俗資料館等専門職員研修会

歴史民俗資料館等専門職員研修会は、文化庁との協力関係のなかではじめられた博物館や資料館の職員のための研修会で、1983年からおこなわれている。2年を1期として毎年開催され、現在は、文化庁との共催となっている。講師は文化庁職員と当館教職員が主に担当している。参加者は全国から都道府県単位で募集されている。2023年度は昨年度と同じ受講者による2年目の研修が行われ、28名が受講した。